第 117 回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年４月２２日提出）

１．題　目：教養教育ＦＤワークショップ（英語科目）
「グローバル人材育成に向けた授業展開のあり方について」

２．日　時：１回目：平成 27 年 3 月 7 日（土）13：00 ～16：00
２回目：平成 27 年 3 月 16 日（月）13：00 ～16：00

３．場　所：教養教育講義棟 C-35 教室(CALL1)

４．主　催：英語小委員会

５．対　象：教養教育外国語担当（英語）担当教員

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　○　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　○　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
外国語教育の改革においては、運用能力育成に向けた教育改善に加えて、大学入試の改善も重要な課題である。このような状況の中、長崎大学における外国語の授業（教養教育）では、オンライン CALL 教室を整備し、教育改善を行ってきている。具体的には、オンライン e-learning 教材（3STEP リスニング教材・語彙力増強のための e-learning 教材(Power Words)の整備を進めるとともに、各授業で取り上げる指導項目、指導スキルの確認と統一、定期試験の平準化を押し進めている。今後は、効果の検証を定期的に進めるとともに、グローバル人材育成に向けたさらなる授業改善・展開が期待されている。そこで、２６年度の外国語教育（英語）FD では、外部講師を招聘し、世界的に認められている IELTS や各種検定試験についての知識を深める機会とするとともに、そうした試験を意識した大学での授業のあり方、展開、特に、専門への橋渡し時期である教養教育においての指導がいかにあるべきかを見極め、理解を深める機会としたい。また、一部の学部で導入が決まっている IELTS が他の学部にも適用可能であるのかを考察する機会としたい。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）

3 月 7 日（土）１回目

1. 挨拶（言語教育研究センター長　稲田俊明教授）13:00-13:10

2. IELTS 概要説明（日本英語検定協会　西畑瑠衣子氏）13:10-13:40

3. IELTS 授業実践例（CSI 福岡留学センター　福永先生、小野先生）14:00-15:00
　質疑応答、及びディスカッション 15:10-15:40

4. 外国語教育（教養教育）の基本方針について（言語教育研究センター　西原俊明教授）
15:40-16:00

3 月 16 日（月）2 回目

1. 挨拶（言語教育研究センター長　稲田俊明教授）13:00-13:10

2. TOEFLiBT 及びその活用事例
（立命館アジア太平洋大学言語教育センター ETS 公認 TOEFL トレーナー五十峰 聖氏）
13:10～14:30

3. 質疑応答 14:50～15:05

4. 外国語教育（教養教育）の基本方針について （言語教育研究センター　廣江 顕教授）
15:05～15:25

5. ディスカッション　15:25～15:55

９．参加者：４２名（受講証発行対象者：４１名（途中退出者１名を除く））

（内訳）

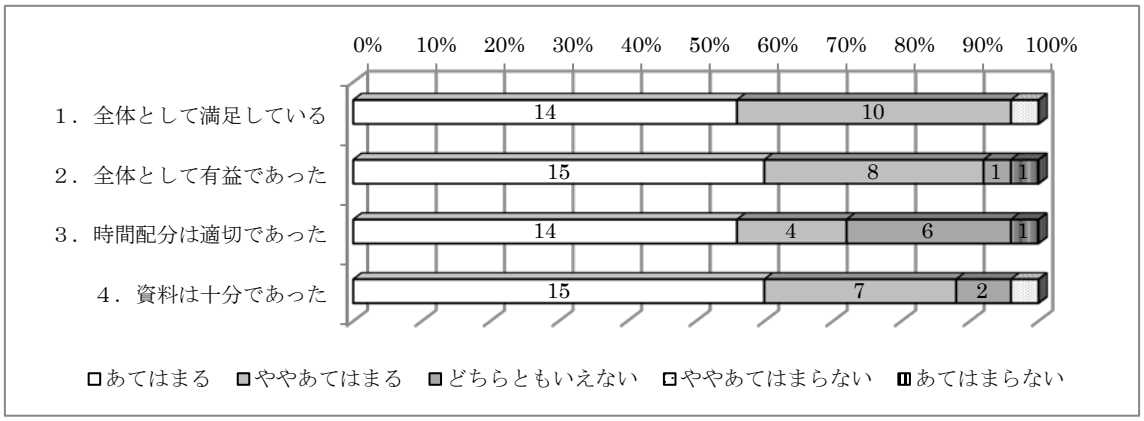
所　　属	人　　数
言語教育研究センター	9
多文化社会学部	9
教育学部	3
経済学部	1
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
学外非常勤講師	19
計	42

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

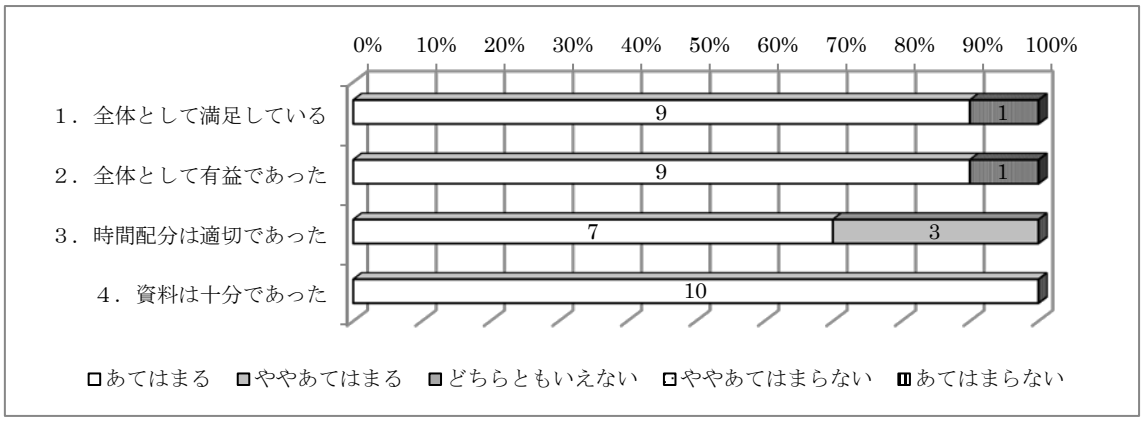
１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）

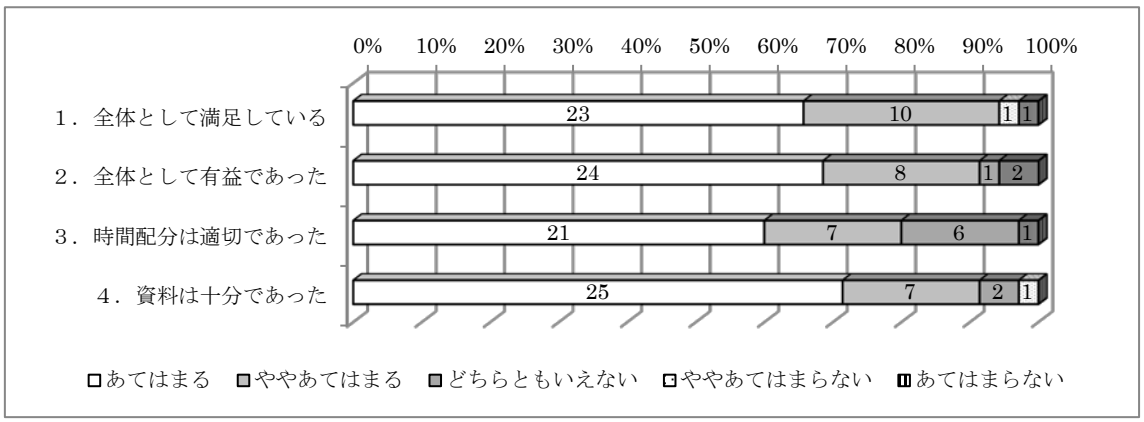
3 月 7 日



3 月 16 日



全体



●今回のＦＤの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。
3 月 7 日
・参加させて頂きまして、誠にありがとうございました。大変勉強になりました。今後の学生の学修支援に活かしていきます。またこのようなワークショップに参加させて頂けると大変勉強になり、嬉しいです。宜しくお願い致します。
・具体性があってとても良かった。質問しやすい雰囲気があり、良かった。
・IELTS の内容がわかり参考になりました。
・授業のやり方について今回のようなモデルをしめしていただけると刺激になります。
・IELTS について知っている教員に対しては物足りないという感じもあったが、全体で情報を共有するという点では有意義なＦＤだったと思う。
・IELTS の説明が配布された資料だけでは追いかけられなかった。
・アイエルツの内容がよく理解できました。ただ学生のレベル等を考えると授業展開の一つのあり方(にすぎない)である認識を持っておく必要があると思いました。
・IELTS 担当のお２人の話、とても分かりやすく、興味深かったです。どうもありがとうございました。
・IELTS の内容がとてもよくわかりました。ありがとうございます。
・IELTS の指導方法、とても参考になりました。

3 月 16 日
・各学部の人材育成目標をより強く意識して英語教育を行うべきだと思う。
・大変参考になりました。
・今回も本ワークショップに参加させて頂きまして、ありがとうございました。とても勉強になり、今後に活かしていきたいと思います。またこのような貴重な機会を頂けると大変勉強になり幸いです。本日は貴重な機会を頂きまして、誠にありがとうございました。

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

今回の FD では、IELTS、及び、TOEFL iBT のトレーニングを実践しておられる外部講師にお話をしていただいた。グーロバル人材育成に資する外部試験という観点から、試験の概要と実践訓練方法を具体的な例とともに示していただいた。また、二つの試験に含まれるタスクの中で最も日本人学習者にとって練習機会が必要となる部分についても説明を受けた。FD 参加者は、上記二つの試験の特徴を理解できただけでなく、具体的実践例に触れる機会をもてたことで、どのような練習が教養教育レベルの授業の中で可能になるかイメージできたと思われる。今後は、授業の中に取り入れることが可能な IELTS、TOEFL iBT 用実践例を多く取り入れ、学生たちに到達可能な目標を意識させるとともに、IELTS 試験を長

崎大学で実施したい。現在のところ、遅くとも秋には第一回目の IELTS 実施の方向で関係者と協議を進めている。

（文責：西原 俊明）

１１．実施代表者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：言語教育研究センター長　　氏　名：稲田 俊明
e-mail：inadat@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2379

１２．申請者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：教授　　氏　名：西原 俊明
e-mail：t-nishi@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2095